

ミュージア川崎シンフォニーホール

12月9日(金) 18:30開演

料金 ※()内は友の会会員価格/税込

S席 ¥12,000(¥10,800)	A席 ¥9,000(¥8,100)
B席 ¥6,000(¥5,400)	C席 ¥4,000(¥3,600)

チケットのお申込み

ミュージア川崎シンフォニーホール
TEL 044-520-0200

※ミュージア友の会先行発売日初日は電話予約とWebのみ。※ミュージア友の会会員の先行・割引販売は※印にて受付。
 ④044-520-0200(10:00~18:00)
 ④チケットカウンター(10:00~19:00)
 ④ミュージアWebチケット <http://muza.pia.jp> (24時間対応。発売初日は10:00~)

プレイガイド

TOKYO SYMPHONY チケットセンター
TEL 044-520-1511 (平日10:00-18:00)

□チケットぴあ【Pコード:292-013】
 インターネット受付対応 | 一般用音声認識対応 | ④会員用自動音声応答
<http://pia.jp/> | 0570-02-9999 | 0570-02-9515
 ※24時間対応 発売初日は10:00~ ※会員の方は0570-02-9515をご利用ください。一般用の番号にかけた場合、会員価格での購入はできません。ご注意ください。
 □ミュージア川崎イープラス <http://eplus.jp/kawasaki/>
 □ローソンチケット 0570-000-407 (10:00-20:00)

発売日
 ■ミュージア友の会先行発売日 6月7日(火)
 ■ミュージアWeb会員先行発売日 6月10日(金)
 ■一般発売日 6月17日(金)

※公演内容につきましては、変更が生じる場合がございますのでご了承ください。※公演中の入退場、写真撮影、録音等は固く断りいたします。※公演中止の場合を除き、ご予約・ご購入いただきましたチケットのキャンセル・変更はお受けできません。※営利を目的としたチケットの転売は固く断りいたします。※未就学のお子様のお入場はご遠慮ください。※座席により字幕が見づらい場合がございますご了承ください。

※託児サービスがございます。
 託児サービスのご案内(予約制) 託児料金・・・0.1歳児3,000円 2歳児以上2,000円
 お申込みはイベント託児マザーズへ TEL:0120-788-222(月~金10:00-12:00、13:00-17:00)



東京芸術劇場コンサートホール

12月11日(日) 15:00開演

東京芸術劇場コンサートオペラvol.4

料金 ※税込

S席 ¥12,000	A席 ¥9,000	B席 ¥6,000
C席 ¥4,000	D席 ¥2,000	

チケットのお申込み

東京芸術劇場ボックスオフィス
TEL 0570-010-296

※芸術先行発売日初日はWebのみ。芸術メンバーズへの登録が必要(無料)。
 電話&チケット窓口(休館日を除く10:00~19:00)
 PC <http://www.geigeki.jp/t/>
 携帯 <http://www.geigeki.jp/i/t/> (24時間対応 ※メンテナンス時間を除く)

プレイガイド

TOKYO SYMPHONY チケットセンター
TEL 044-520-1511 (平日10:00-18:00)

□チケットぴあ【Pコード:295-717】※24時間対応
 インターネット受付対応 | 一般用音声認識対応
<http://pia.jp/t/geigeki/> | 0570-02-9999
 □イープラス <http://eplus.jp/>
 □ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター対応 10:00-20:00)
<http://l-tike.com> 0570-084-003 (音声自動応答 Lコード:36251)
 □東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 (10:00-19:00)
<http://www.t-bunka.jp/>

発売日
 ■芸術先行発売日(WEB先着) ... 6月1日(水) 10:00~ 6月7日(火)19:00
 ■一般発売日 6月17日(金)

※託児サービスがございます。
 東京芸術劇場託児施設 だっこルーム TEL:03-3981-7003(平日10:00-17:00)
 料金(1公演あたり)0歳から1歳 2,560円(税込) 2歳以上 2,160円(税込) ※公演30分前から公演30分後まで



波乱万丈のドタバタ喜劇
 恋人取りかえ大作戦が決行! その結末はいかに!?

歌劇
 全2幕

コジファン トウツテ



2016年
12月9日(金) ミュージア川崎シンフォニーホール
 18:30開演 MUZA Kawasaki Symphony Hall
 2016年
12月11日(日) 東京芸術劇場コンサートオペラvol.4
 15:00開演 Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

公演時間:約3時間(途中休憩1回あり)

東京交響楽団 ジョナサン・ノット 指揮/ハンマーフリーユゲル

舞台監督/ドン・アルフォンソ:サー・トーマス・アレン
 Stage director / Don Alfonso: Sir Thomas Allen
 フィオルディリージ:ミア・パーション
 Fiordiligi: Miah Persson
 グリエルモ:マルクス・ウェルバ
 Guglielmo: Markus Werba
 フェルランド:ショーン・マゼイ
 Ferrando: Shawn Mathey
 ドラベッラ:マイテ・ボーモン
 Dorabella: Maite Beaumont
 デスピーナ:ヴァレンティナ・ファルカス
 Despina: Valentina Farcas

合唱:新国立劇場合唱団
 Chorus: New National Theatre Chorus

管弦楽:東京交響楽団
 Tokyo Symphony Orchestra



「客席と舞台が一体化する特別な体験」

私は、演奏会形式のオペラがとても好きです。それはなぜか。

通常のオペラでは歌手は客席から遠くに配置されていますが、演奏会形式では、歌手は聴衆に向かい合い、まるで昔の吟遊詩人のように目の前で一対一で話しかけるようにみなさんに歌いかけることができるのです。

オーケストラも、ピットに隠れず参加型で臨みます。オペラ演奏においても素晴らしい経験を積んでいる東京交響楽団ですが、こうした経験は柔軟性を保つために重要です。

そして今回、特に楽しみにしているのは、すべてのレチタティーヴォを私がハンマークラヴィアで演奏することです。

オーケストラと一丸となって聴衆に向き合い、巻き込みながら一緒にコンサートを作るという特別な体験になるのです。

ディレクションは、バンベルク交響楽団でも共演した、現代最高のバリトン歌手の一人、サー・トーマス・アレンに依頼をしました。日本で「コジ・ファン・トゥッテ」をやると決めた時、ディレクションもドン・アルフォンソ役も、とにかく彼しかない!と思ったのです。

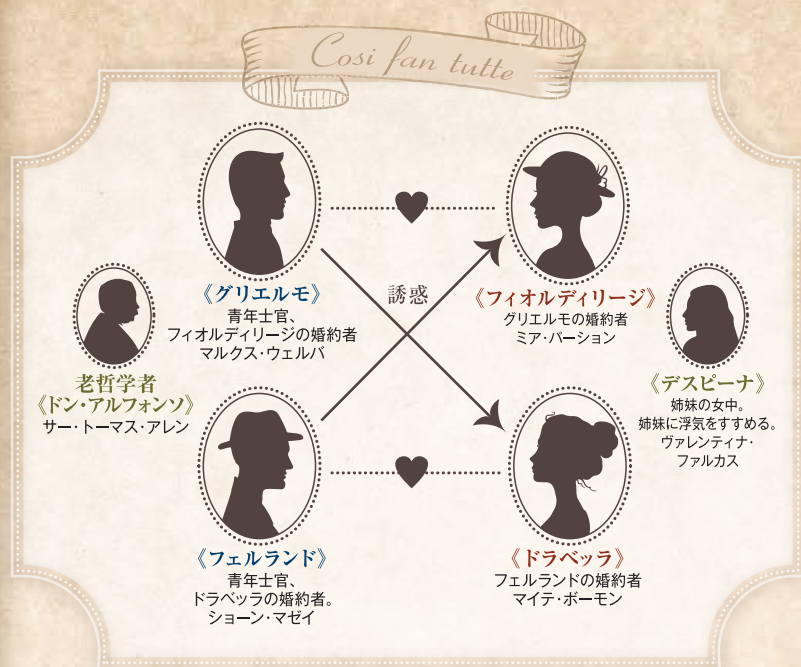
その他にも、これまで共演したことのあるミア・パーション(フィオルディリージ)、マイテ・ボーモン(ドラベッラ)、シヨン・マゼイ(フェルランド)、若手で世界に名をはせるマルクス・ウェルバ(グリエルモ)、ヴァレンティナ・ファルカス(デスピーナ)と、世界中で活躍している素晴らしい歌手たちがこのプロジェクトに集います。

この特別な舞台に、どうぞいらしてください。

ジョナサン・ノット




©N. Ikegami



あらすじ

第1幕

舞台は18世紀のナポリ。「女はみんな心変わりをするもの」という考えの老哲学者ドン・アルフォンソの言葉の真偽を検証するため、青年士官であるフェルランドとグリエルモは、それぞれの恋人で姉妹のドラベッラ、フィオルディリージに、戦地に赴くと偽ってお別れをした。しかし実は、二人は変装したアルバニア人の姿となって二人の目前に現れ、お互いの恋人をとりかえて相手の恋人を誘惑する。しかし、二人とも拒絶する。特にフィオルディリージは、貞節を誓う歌を歌う。

恋人たちが戦地に行ってしまう、残された姉妹は、嘆き悲しんでいる。そのような姿を見た姉妹の女中であるデスピーナは、二人に浮気を勧めるが、ドラベッラは、デスピーナが愛を軽んじていることに怒りを覚える。デスピーナは、ドン・アルフォンソから賄賂をもらって、二人の男たちとともに検証実験に加わることになる。

姉妹から拒絶された男たちは、二人の同情を誘おうと試みるため、毒をのんだふりをする。案の定、姉妹は動揺して、男たちを介抱し始める。医者と呼びに出ていったデスピーナは、戻ってきたときには、医者扮演着男たちの治療を行うふりをし、姉妹の二人に、男たちの面倒をみるように急き立てる。男たちは、回復に向かうと、いよいよ姉妹への愛情が増して二人に口づけを求めると、姉妹はここでも彼らの要求を拒絶する。

第2幕

デスピーナは姉妹に、浮気は問題ないことを説く。驚くべきことに、姉妹は納得してしまい、誰がどの人とペアになるのかを話し合っている。庭では、男たちが姉妹へ恋の歌を歌っている。フィオルディリージの婚約者、グリエルモは、ドラベッラにアタックし、フェルランドはフィオルディリージに求婚する。フィオルディリージが貞節を頑なに守っていることに、実際の婚約者であるグリエルモは喜び、フェルランドは、ドラベッラが心移りしてしまったことにうろたえて、裏切られた気分になってしまう。

フィオルディリージは、ドラベッラの気の変わりやすさを非難しつつ、自分自身も、フェルランドに惚れてしまったことを認める。ドラベッラは、恋の楽しさを歌って、フィオルディリージを説得しようとする。本当の恋人でグリエルモのいる戦地に行こうとするフィオルディリージだが、ついにフェルランドの求めに応じてしまう。老哲学者のドン・アルフォンソは言う。「女はみんな心変わりをするもの」だと。

二組のカップルの、結婚式が催される。デスピーナは、公証人に扮して登場し、二組のカップルは結婚の証書にサインする。そのとき、兵士の帰ってくる歌声が響き、姉妹は大慌て。変装を解いたフェルランドとグリエルモが現れる。二人の青年は結婚証書を見つけて激怒する。ここで初めて種明かしされ、和解決して幕が閉じる。



指揮/ハンマーフリーゲル:
ジョナサン・ノット (東京交響楽団音楽監督)

Conductor/Hammerflügel: Jonathan Nott

1962年イギリス生まれ。ケンブリッジ大学で音楽を専攻し、マンチェスターで声楽とフルートを学ぶ。ドイツのヴィースバーデン・ヘッセン州立劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン交響楽団首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、アンサンブル・アンテルコンタンポランの音楽監督を経て、2000年よりドイツ・バンベルク交響楽団首席指揮者。古典から現代曲まで膨大なレパートリーを誇り、ベルリン・フィル、ウィーンフィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ライプチヒ・ゲヴァントハウス管、シカゴ響等、世界のオーケストラへ客演している。2013年、ルツェルン音楽祭75周年ではワーグナー《ニーベルングの指環》全曲を演奏会形式で上演し大きな話題となった。2014年度シーズン東京交響楽団第3代音楽監督に就任した。

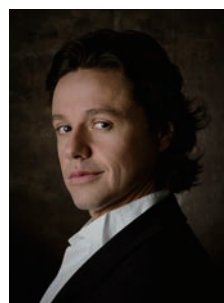


舞台監修/ドン・アルフォンソ役:
サー・トーマス・アレン

Stage director/
Don Alfonso: Sir Thomas Allen

世界の主要な劇場・音楽祭およびオーケストラに出演し、バリトン歌手としての確固とした地位を築いている。2011年には、メトロポリタン歌劇場デビュー30周年を祝い、同年、英国ロイヤル・オペラデビュー40年を記念して50役以上を務めた。現在、英国ダラム大学の学長を務めている。

©Sussie Ahlburg



グリエルモ役:
マルクス・ウェルバ

Guglielmo: Markus Werba

オーストリア生まれ。スカラ座、英国ロイヤル・オペラ、バイエルン国立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、メトロポリタン歌劇場、サントリーホール、プエノスアイレス・テアトロ・コロソ、ザルツブルク音楽祭、タングルウッド音楽祭、アスペン音楽祭など、主要な劇場・音楽祭に出演し、今最も注目される、バリトン歌手である。

©Francesco Luciani



フェルランド役:
シヨン・マゼイ

Ferrando: Shawn Mathey

これまでに、チューリッヒ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、アン・デア・ウィーン劇場をはじめ、さまざまな劇場や音楽祭に出演して着実にキャリアを築いている。最近では、ブリテン《真夏の夜の夢》ライザンダー役でジュネーブ大劇場デビューを果たした。

©Barbara Aumuller



フィオルディリージ役:
ミア・パーション

Fiordiligi: Miah Persson

スウェーデン生まれ。これまでにウィーン国立劇場、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭、新国立劇場など、主要な劇場・音楽祭に出演し、高い評価を得ている。

©Mira artistbilder

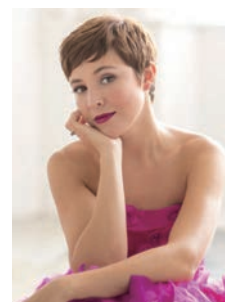


ドラベッラ役:
マイテ・ボーモン

Dorabella: Maite Beaumont

スペイン生まれ。パリ国立オペラ、リセウ大劇場、バイエルン国立歌劇場をはじめ、さまざまな劇場で活躍している。2005年にザルツブルク音楽祭で開催された、「コジ・ファン・トゥッテ」のドラベッラ役でデビューを果たし、高い評価を受けている。

©Kirsten Nijhof



デスピーナ役:
ヴァレンティナ・ファルカス

Despina: Valentina Farcas

ザルツブルク音楽祭「後宮からの誘拐」プロンデ役でデビュー。最近では、ベルリン・コーミッシェ・オーパーにて、ヘンデル作曲《ジュリアス・シーザー》クレオパトラ役、ローザンヌ歌劇場にて、《ウィンザーの陽気な女房たち》のフルート夫人役を務めた。オーケストラとの共演では、リッカルド・シャイー指揮、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団とマラー(千人の交響曲)、ピーター・ウンジャン指揮、ロイヤル・スコティッシュ管弦楽団とマラー《交響曲第2番》で共演するなど、さまざまな劇場・オーケストラと共演を重ねている。

東京交響楽団
川崎市フランチャイズオーケストラ

Tokyo Symphony Orchestra, Resident Orchestra for City of Kawasaki

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。2004年7月より、川崎市のフランチャイズオーケストラとしてミュゼ川崎シンフォニーホールを拠点に定期演奏会や特別演奏会を開催するほか、市内での音楽鑑賞教室や巡回公演、「川崎フロンターレ」への応援曲の提供など多岐にわたる活動を行う。これらが高く評価され、2013年に第42回川崎市文化賞を受賞。また、文部大臣賞、京都音楽賞大賞、毎日芸術賞、サントリー音楽賞など日本の主要な音楽賞の殆どを受賞している。新国立劇場ではレギュラーオーケストラとしてオペラ・バレエ公演を担当。教育面では「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」が注目されている。海外公演も数多く、これまでに53都市71公演を行う。2014年度シーズンより、ジョナサン・ノットが第3代音楽監督に就任。正指揮者に飯森範親、首席客演指揮者にクシシュトフ・ウルバンスキ、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スターン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。2016年に創立70周年を迎えた。

HP <http://tokyosymphony.jp>



新国立劇場合唱団

New National Theatre Chorus

1997年の新国立劇場開場に合わせ、劇場で行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を開始。公募され、厳正な審査によって選ばれるメンバーは例年100名を超え、新国立劇場が上演する多彩なオペラ公演により年々レパートリーを増やしている。個々のメンバーは高水準の歌唱力と優れた演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量により、新国立劇場の歴史とともに、共演する出演者、指揮者、演出家・スタッフはもとより、国内外のメディアからも高い評価を得ている。外部公演の依頼も多く、メンバーには幅広い活動の場が与えられている。